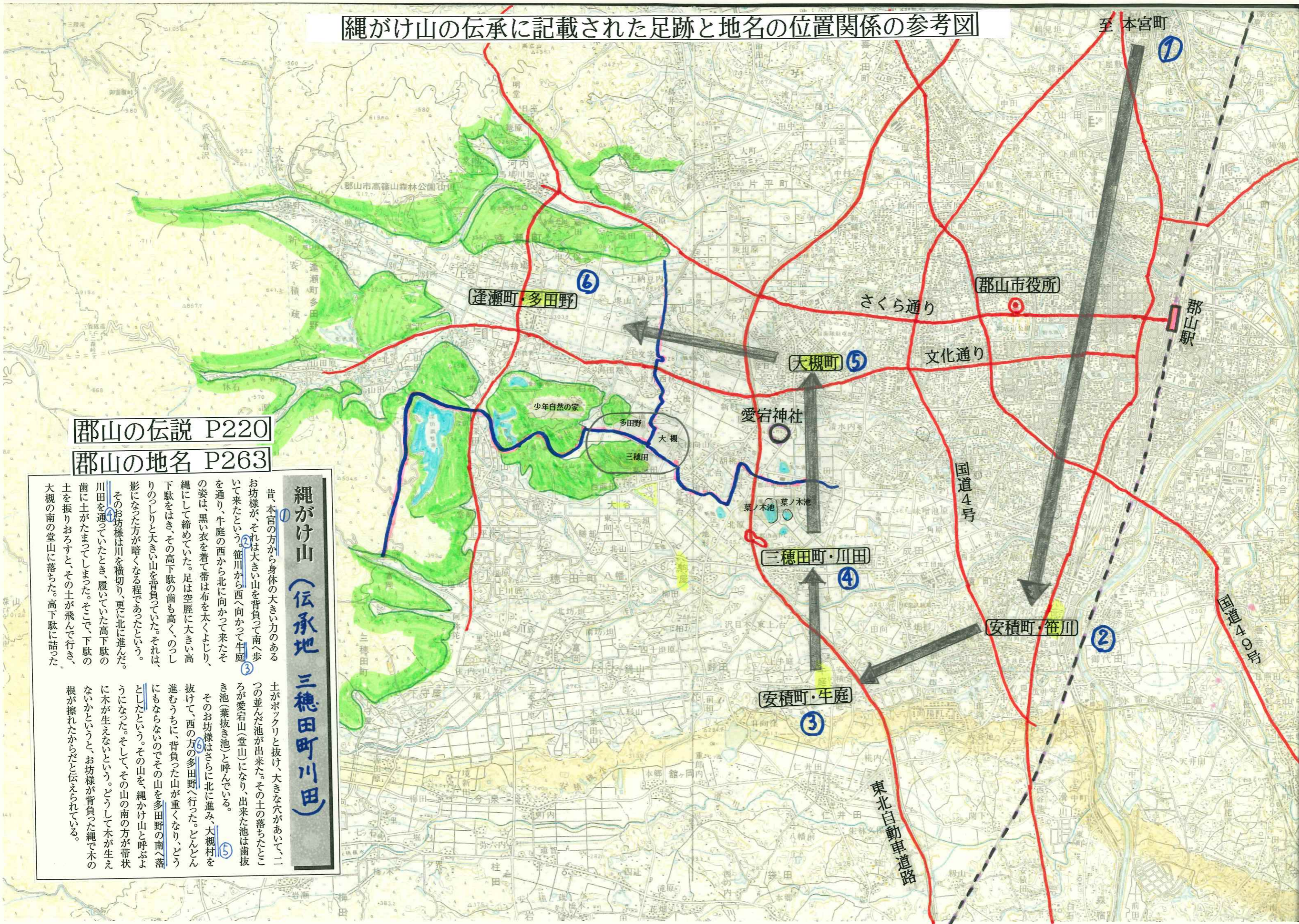


縄がけ山の伝承に記載された足跡と地名の位置関係の参考図



郡山の伝説 P220

郡山の地名 P263

縄がけ山 (伝承地 三穂田町川田)

昔、本宮の方から身体の大きい力のあるお坊様が、それは大きい山を背負って南へ歩いて来たという。笹川から西へ向かって牛庭を通り、牛庭の西から北に向かって来たその姿は、黒い衣を着て帯は布を太くよじり、縄にして締めていた。足は空脛に大きい高下駄をはき、その高下駄の歯も高く、のつしりのつしりと大きい山を背負っていた。それは、影になつた方が暗くなる程であつたという。そのお坊様は川を横切り、更に北に進んだ。川田を通つていたとき、履いていた高下駄の歯に土がたまつてしまつた。そこで、下駄の土を振りおろすと、その土が飛んで行き、大槻の南の堂山に落ちた。高下駄に詰つた

① 土がポツクリと抜け、大きな穴があいて、二つの並んだ池が出来た。その土の落ちたところが愛宕山(堂山)になり、出来た池は菌抜き池(葉抜き池)と呼んでいる。

② そのお坊様はさらに北に進み、大槻村を抜けて、西の方の多田野へ行つた。とんとん進むうちに、背負つた山が重くなり、どうにもならないのでその山を多田野の南へ落としたという。その山を、縄がけ山と呼ぶようになった。そして、その山の南の方が帯状に木が生えないという。どうして木が生えないかという、お坊様が背負つた縄で木の根が擦れたからだと言われている。